

氏名	難波 康夫		
学位(専攻分野)	博士(医学)		
学位授与番号	博乙第 2534 号		
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 28 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	気管支喘息の重症化要因に関する検討		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 辻 孝夫	教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

喘息の重症・難治化の要因を明らかにする目的で、アトピー型・非アトピー型での病態を重症度別にカンジダとハウスダスト・ダニ抗原を対比して検討し、以下の結果を得た。

1) アトピー型では重症例において①IgE系の反応はダニ抗原に対して減弱する。②カンジダ特異的IgG1抗体が非アトピー型ほどではないが高い。③カンジダ抗原による吸入誘発試験では非即時反応の陽性率が高い。という特徴がある。2) 非アトピー型の重症例では②③に加えてカンジダ抗原に対するリンパ球幼若化反応の亢進、DeARの出現がその特徴としてあげられた。3) IgE (RAST) 及びリンパ球幼若化反応による新しい分類の試みにおいては一般にリンパ球活性化の関与する症例の多いことが示唆された。以上、成人の喘息では、アトピー型・非アトピー型いずれの病型においても、カンジダ抗原はIgG1抗体を介して喘息を重症化させている可能性があり、また非アトピー型では重症化に感作リンパ球の関与が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は喘息の重症・難治化の要因を明らかにする目的で、アトピー型・非アトピー型での病態を重症度別にカンジダとハウスダスト・ダニ抗原を対比して検討したもので、成人の喘息では、アトピー型・非アトピー型いずれの病型においても、カンジダ抗原はIgG1抗体を介して喘息を重症化させている可能性があることを、また非アトピー型では重症化に感作リンパ球の関与することを示唆した価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。